

二〇二五年度 武蔵野東中学校 入学試験

国語

一

次の①～⑤の―線部の漢字には読み仮名をつけ、⑥～⑩の―線部の仮名は漢字に直して書きなさい。必要に応じて送り仮名もつけなさい。

- ① 簡素な結婚式。
- ② 四番打者が敬遠される。
- ③ 昨今の社会風俗。
- ④ 実力を発揮する。
- ⑤ 自ら墓穴を掘る。
- ⑥ キンセイがよくとれている。
- ⑦ 長年の悲願がジョウジュする。
- ⑧ ゼンダイミモンの出来事が起きる。
- ⑨ 学業をおさめる。
- ⑩ 平和をのぞむ。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
(＊印がついている言葉には、本文の後に「注」があります。)

船長さんと親しくなるにつれ、このごろではとくに口笛の合図がなくても、毎日のように、ケン^①は船長さんを訪ねるようになっていました。そのあいだにも、船長さんは家のあちこちをすこしずつくりかえしていました。

あの、海賊がにげだしたのと同じ形の丸窓をつくったあとには、世界じゅうの海図、世界各国の旗、各種の信号旗、航海日誌などをしま^②う棚がつくられ、またどの部屋にも＊真鍮の手すり^③がとりつけられました。この手すりについては、船長さんはこんなふうにいいました。

「今度、航海に出るときには、杖などというやっかいなものは持っておられんからな。いざつていうときは、こいつにつかまって歩かにやらん。じつさい、嵐^④になったらたいへんなんだよ。船がゆれるからね。戸棚の戸はばたばた開いてしま^⑤うし、椅子はスケット靴^⑥でもはいたように部屋のすみからすみまですべつてあるくし、それにテーブルの上のものは、たちまち落ちてしま^⑦うしな。船つてもんはこうしたものさ」

そのあとすぐ、⑧戸棚にはしっかりと力^⑨ギがとりつけられ、椅子は床に固定され、あの宝もののテーブルは枠^⑩をつけて、お盆のようにつくりかえられたのでした。

こんなふうに船長さんは、この家のことを、「船つていうのは……」と、まじめな顔でいうのです。それに、今では＊操舵室^⑪としか呼ばれな

なくなった居間で、舵かじをにぎりながら、うしろの丸窓をふり返って、「通りすぎた海がよく見えるのう」なんて、ひとりごとをいったりすることがあるのです。

そのたびにケンハ、急に頭がごちゃごちゃして、どこまでがほんとうなのか、整理がつかなくなり、思わず、そばの柱や椅子をつかんでしまうのでした。でも、そのことで、^②なにかきいたりするのは、あまりやさしいやりかたでないことぐらいはわかるのでした。

船長さんは、こういうこまごました仕事を、ひとり進めてきました。ときどきいろいろ説明のようなものを口にするのですが、ケンにはそれが自分にくれていのか、船長さんのひとりごとなのか、よくわからないのでした。

というのは、家をつくりかえるという大きな仕事なのに、船長さんはまるで、自分のひざのあいだに木をかかえて、お人形さんでも彫ほっている人のように見えるのです。この楽しみを、ほかの人にわけてやるのが惜おしい、とでもいうような気配さえ、感じられるのでした。

ケンはなんだかつまらないのです。

それでのう、船長さんが、「じゃ、また、あしたな」といったとき、^③すなおに、「うん」とは、いえなかったのでした。

ケンは、朝からベッドによりかかり、足をなげだしてすわっていました。

（毎日行ってるのにさ、てつだわせてもくれないんだから。くぎ一本ぐらい、打たしてくれてもいいじゃないか。もう行かない。きょうは行か

ない。あしただって、行かないよ。呼びにきても、行かない）

ケンはくりかえし、くりかえし、こう自分の心にいつづけていました。そしてそのことばは、なにか重いかたまりになって、胸にたまっていくようでした。ケンは苦しくなって、なんどもせきばらいをしました。「どうしたの、ケン、ぐあいでもわるいの」

おかあさんのみち代さんは、いつもの時間になっても、いっこうに船長さんの家へ出かけていけないケンを、心配そうにうかがいました。

「うん、すこし……」

ケンはそういうと、船長さんの家の見える窓ガラスを（ A ）しめ、ベッドに横になりました。

（もしぼくと話がしたいなら、船長さんのほうからくればいいんだよ。ずーっとぼくのほうで行っていたんだから）

船長さんのことが気になればなるほど、ケンの気持はどんどんひねくれて、なかなかあとにもどらないのでした。

そして、その一日、ケンは（ B ）すごしてしまったのでした。

つぎの朝、目をさましたケンは、かすかにひびいてくるくぎを打つ音を耳にしたとたん、きのうみじめだった一日を思いだしました。

（ほれ、ごらん、ぼくが行かなくなったら、船長さんはちっとも気にならないんだ）

その日も一日じゅう、ケンはぶすつとふくれてすごしました。世界じゅうのだれかに^④文句をいいたい気持でした。でも、日のかたむくころには、心の中では不満よりも後悔こうかいが、しだいに大きくなっていききました。

ふと気がつく、岡の上のほうから、口笛の音がきこえてきました。

ケンははじけたように立ちあがりました。でも、窓をあけたらいいものかどうか、手を出したりひっこめたりしていると、ガラスに猫の^{ねこ}かげがうつり、しっぽが動いて、（ C ）小さな音が鳴りました。

ケンはいそいで窓をあけました。そこには、夕日を背にして、船長さんが立っていました。そして、^⑤まるでないし話でもするような、小さな声でいったのです。

「あしたから、^{*前甲板の工事にとりかかりたいんだがね。君もいそがしいんだろうけれど、手をかしてもらえないかな}」

ケンは、折れるほど首をこくとさげると、びっくりするぐらいの大きな声で、「いいよ」といいました。

「じゃ、待ってるよ」

船長さんはそういって、ファイファイをこわきにかかえ、また岡をのぼっていきました。

そのうしろ姿を見送りながら、ケンは、どうにもじっとしていられませんでした。それで片足で立って体をコマのようにくるくると、ななどもまわしました。

そしてよく日、朝ごはんのあと、しばらく部屋でござそしたくをしていたケンが出てきました。おかあさんのみち代さんは、ケンの姿を見て、「まあ」といったきり、くすくす笑いだしました。

ケンはズボンのベルトに、この海辺の家で集められる道具のすべてを、ぶらさげていたのです。まずトンカチ、トンカチはトンカチでもお

肉をたたくトンカチ、でもないよりはましです。つぎに折りたたみナイフ。これまではえんぴつしかけずったことがなくても、ぜひともこの大工事に参加してもらわなくてはなりません。ものさし、三角定規、分度器、コンパス。あればきつと便利でしょう。ホチキス、ドライバー、たこ糸、セロテープ。おばあちゃんがよく使ってました、「※」って。

おまけにケンは、大工さんのまねをして、頭をてぬぐいできりりとしぱり、両耳に一本ずつえんぴつをさしていたのでした。

「なにがおかしいのさ。これから船長さんとこまでおてつだいに行くんだよ」

「でも……よく考えたものね」

みち代さんは、まだのどのおくで、（ D ）笑っています。

「さあ、行つてらっしゃい。さっきトラックが材料を運んできたわよ。それに、ほら、地面になにか打つてるような音がきこえるでしょ。船長さん、きつと待つてらっしゃるわ」

^⑥みち代さんは、ぱんとケンのおしりをたたきました。

（角野 栄子「ズボン船長さんの話」より）

〔注〕

真鍮…熱によっていろいろな形に加工がしやすい銅と亜鉛がまざった金属。

操舵室…船を操縦する部屋。

前甲板…船の前方にある床部分。デッキともいう。

問一 ― ①「戸棚にはしっかりと力ギがとりつけられ、椅子は床に固

定され、あの宝もののテーブルは枠をつけて、お盆のようにつくり
かえられた」のはなぜですか。それを説明した次の文の **ア** にあ
てはまる言葉を本文中から三字で書きぬき、 **イ** にあてはまる
言葉は指定の字数以内で考えて答えなさい。

船は嵐^{しげ}になると **ア**(三字) ので、 **イ**(三十五字以内) から。

問二 ― ②「なにかきいたりするのは、あまりやさしいやりかたでない」

とはどういうことですか。最も適切なものを次の **ア**、**エ**の中から
一つ選び、記号で答えなさい。

ア 家を本物の船とかんちがいしているのではないかと聞くと、
船長さんの正気を疑ってしまうことになるということ。

イ いつから居間は本物の操舵室になったのかと聞くと、操縦を
楽しんでいる船長さんの気分を悪くさせるということ。

ウ 通り過ぎた海とはどのような海かと聞くと、操縦を演じてい
る船長さんを子どもあつかいすることになるということ。

エ ひとりごとを言ったことに気付いているのかと聞くと、船長
さんを年よりあつかいしていることになるということ。

問三 ― ③「すなおに、『うん』とは、いえなかった」のはなぜですか。

それを説明した次の文の **ア**・**イ** にあてはまる言葉を、それ
ぞれ本文中から指定の字数で探して書きぬきなさい。

ア(八字) という大きな仕事をケンも手伝いたかった
のに、船長さんは一人で仕事をするのを楽しんでいるよう
で、 **イ**(十五字) というような気配すら感じられたので、
つまらなかったから。

問四 本文中の() **A**、**D**にあてはまる言葉を、次の **ア**、**エ**の

中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア くくくと **イ** ぴちやりと
ウ つんつんと **エ** ぐずぐずと

問五 ― ④「文句」とありますが、ケンが言いたい内容を具体的に表現した部分を本文中から二十三字で探し、最初の五字を書きぬきなさい。

問六 ― ⑤「まるでないしよ話でもするような、小さな声」で船長さんが話しかけたのはなぜですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 家の工事を手伝うことができないケンの不満を感じとり、おこらせてはいけなさと注意深く言葉を選んで話しているから。
- イ とつぜん家に来なくなってしまったケンの気持ちかわからないので、直接顔をつきあわせて話しをするのがきまずいから。
- ウ 手伝いたいけれど素直に気持ちを伝えられないケンを察して、優しく接することで手伝いに来やすいふんいきにしたいから。
- エ 家に来づらくなったケンの気持ちに気付き、もうしわけないことをしたと反省していることをしっかり示したいから。

問七 ※には、「ふだん準備がしてあれば、万一の出来事が起きても心配しないですむ」という意味の慣用句が入ります。その慣用句として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いたれりつくせり イ 備えあればうれいなし
- ウ 腕によりをかける エ 片ぼうをかつぐ

問八 ― ⑥「みち代さんは、ぱんとケンのおしりをたたきました」とありますが、みち代さんはどのような思いでこのような行動を起こしたのでしょうか。六十字以内で書きなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ひとつの方向から見た情報や意見だけを並べて話を進めても、どうしても平板で浅い話に陥りがちです。しかし、自分の意見は「これだ」と決めつける前に、①もうひとつ別のポジションから見た違う意見や情報を積極的に話に取り入れていくと、話は深くなっていきます。

「私たちにはこのように考えられるが、競合の他社から見たらこうである」、「これは利益に見えるが、別の見方では、実はこのような不利益をもたらしている」など、他の視点からの情報、意見を織り交ぜると、角度がつくぶん、②話に奥行きが出てくるのです。

つまり、情報収集の際には、角度をつけて、別の視点からの意見や情報を意識的に集めることが、深い話をするためには重要なのです。「一般的にはこう言われていますが、反対から見るとこうなっている」などと触れながら、最終的に、自分の価値判断に従って意見を述べればいいのです。

このように、別の視点が加わると深みが出るというのは、片目でものを見ると距離感がつかめませんが、両目で見ると奥行きがわかるようになるのと同じことです。情報収集は、常に③「両眼視」できているかを意識しながら進めると効果的です。

自分の意見や立場に*依拠した情報だけに偏っていないか、常にチェックをしてみましょう。ひとつの立場に偏らず、「別の視点からはどう見えるだろうか」と発想を転換して思考することが大切なのです。それら

を組み入れながら、自分の話を展開していければ、必ず深い話になっていきます。

深い話をするためには、④最低限必要な情報量というものがあります。それを収集しようとしたとき、現代であればインターネットが最強の武器でしょう。

検索機能を*駆使して、ひとつの視点にこだわらず、さまざまな立場からの情報、意見を収集していきましょう。

その際に注意したいのは、情報の信ぴょう性を自分なりにチェックすることです。

いまは、政治家や著名人が誤った情報を事実だと思い込んでSNSなどで拡散し、大問題になることがよく起こっています。

フェイクニュースに踊らされるということは、「情報を適切に扱う⑤分別もない」ということで、「深い話」、「浅い話」以前に、「浅はかな人」という評価をまわりからされてしまう危険性があります。

そのような事態を避けるには、日ごろから、情報をその信ぴょう性によってランクづけしておくことがとても効果的です。興味深い情報だからといってすぐ飛びつくのではなく、いったん立ち止まって、信ぴょう性を常にチェックするという姿勢が必要なのです。

情報の信ぴょう性とは、つまるところ、その⑥情報の「出どころ」がどこによって決まってきます。いくつもの新聞に書かれていることなのか、コメンテーターがただ言っただけのことなのか、公的機関の発表文書なのか、名前も経歴もわからない人の発信する情報なのか、それぞれ

の情報の出どころによって信用度は違います。

私の場合は日ごろから、以下のような情報のランクづけを行っていません。

大手メディア、通信社の複数が報じている情報、当事者のオフィシャルな発信などはAランクとして、もっとも信ぴょう性が高いものとして、事実として扱っています。

一方で、ひとつのメディアしか報じていないような情報、個人のジャーナリストや専門家が発信しているような情報は、Bランクとして、「このような情報もある」と注釈つきで扱います。

もっとも信ぴょう性の低いCランクは、出どころが明確ではない情報です。発言者の素性がわからないもの、*匿名とくめいによる情報などは、ひとつの見方として知っておくことに意味はありますが、具体的に話題に取り上げることは避けるようにしています。このように情報をランクづけして適切に扱い、「両眼視」した情報も組み入れて話を展開しましょう。

ただ、^⑦情報の見極め方が自分のなかでルールとなっていないと、結果的に事実ではない情報を取り上げてしまう事態も起こり得ます。そうなってしまつと、あとになって聞き手側から、「あの人の話は、事実関係が いい加減だ」、「あの人はデマに踊らされている」と批判されてしまいます。

情報の*真贋しんかんを見極められるということは、^⑧深い話をする人の基礎的な能力でもあります。自分なりに情報のランクづけをしておきましょう。

(齋藤孝「いつも『話が浅い』人、なぜか『話が深い』人」より)

〔注〕

依拠…よりどこをとすること。

駆使…使いこなすこと。

匿名…実名をかくして知らせないこと。

真贋…ほんものにとせもの。

問一 — ① 「もうひとつ別のポジションから見た違う意見や情報を積極的に話に取り入れていく」とありますが、これを言いかえた部分を本文中から二十七字で探して、最初の五字を答えなさい。

問二 — ② 「話に奥行きが出てくる」ようにするためにはどのようにすればよいですか。それを説明した次の文の **ア**・**イ** に当てはまる言葉を本文中から指定の字数で探して書きぬきなさい。

自分の **ア** (十四字) 前に、別の意見を取り入れたあとで最終的に **イ** (十一字) 意見を述べればいい。

問三 ― ③「『両眼視』できているかを意識」するとは、意見を述べる
ときにどうすることですか。五十文字以内で説明しなさい。

問四 ― ④「最低限必要な情報量」を手に入れるときに確認しなければ
ならないのは何ですか。本文中から八字で探して書きぬきなさい。

問五 ― ⑤「分別^{ぶんべつ}」とありますが、この言葉の意味を次のア～エの中か
ら一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------|---|--------|
| ア | 分類する能力 | イ | 思考する能力 |
| ウ | 判断する能力 | エ | 表現する能力 |

問六 ― ⑥「情報の『出どころ』」とありますが、本文の内容をふまえて
情報の「出どころ」の具体例をいくつか考えました。信用度が最も
高いといえるのは次のア～エのうちどれですか。一つ選び、記号
で答えなさい。

ア 健康的な食生活に関する情報について発信している、動画配
信サイトで人気な配信者。

イ 自然災害のひ害を受けた個人の体験談について報道している
テレビや新聞といったメディア。

ウ ふだんからチャットを通じて話をする、SNS上でおたがい
にフォローしあっている人。

エ 世界的な企業の商品の新作発表前にSNS上で出回っている
情報をのせているニュース番組。

問七 ― ⑦「情報の見極め方」について、筆者の考えとして適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア メディアが取り上げている以上AランクとBランクの情報は話題に取り上げることができるが、Cランクの情報は不確かなので話題に入れるのは避けた方がよい。

イ メディアが取り上げているとはいえ、AランクとBランクの情報も出どころが示されない以上は信ぴょう性の高さはCランクの情報と変わらない。

ウ 複数のメディアが取り上げたAランクの情報は、信ぴょう性も高く事実といえるが、BランクとCランクは個人の情報にすぎないので信用しすぎてはいけない。

エ 複数のメディアが取り上げたAランクの情報も、一つのメディアしか取り上げていないBランクの情報も、出どころのわからないCランクの情報もすべて事実である。

問八 ― ⑧「深い話をする」とありますが、「深い話」とは情報をどのように見極めて、どのように意見を述べたものなのか。本文全体をふまえて六十字以内で書いて答えなさい。

解答用紙

*のらんには何も記入しないこと

受験番号	
氏名	

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

2

[illegible]

三

[illegible]

＊のらんには何も記入しないこと

一

2点×5 1点×5

⑥	①
均整	かんそ
⑦	②
成就	けいえん
⑧	③
前代未聞	さつこん
⑨	④
修める	はつき
⑩	⑤
望む	ぼけつ

*

15

二

3点

問 一		
イ		ア
も	戸	ゆ
の	棚	れ
が	の	る
落	戸	
ち	が	
て	開	
し	い	
ま	た	
う	り	
	椅	
35	子	
	が	
	す	
	べ	
	っ	
	た	
	り	
	、	
	テ	
	ー	
	ブ	
	ル	
	の	
	上	
の		
25		

*

43

三

4点

問八			ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
て	と	情								
意	つ	報	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
見	の	の								
を	立	信	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
述	場	ぴ								
べ	だ	よ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
た	け	う								
も	に	性	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
の	偏	が								
°	ら	高	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
60	な	い								
ア	い	事	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
	よ	実								
ア	う	な	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
	に	の								
ア	情	か	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
	報	を								
ア	や	見	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
	意	極								
ア	見	め	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
	を	な								
ア	織	が	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
	り	ら								
ア	交	、	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	ア	ア
	ぜ	ひ								

*

42

*